

関西菌類談話会会報

2016年4月 No. 32



目 次

表紙 [クロハツモドキ]	西田富士夫	1
2012年9月 日和田高原合宿に参加して.....	白須賀奈菜	2
上田俊穂さんをしのぶ.....	横山 和正	3
上田俊穂先生との出会いと「津軽旅」.....	佐野 修治	5
きのこの日本語論文をまずは無料で読んでみよう (1).....	佐久間大輔	7
2012年度活動の記録.....		11
表紙によせて, 会報記事投稿のご案内など.....	編集委員会	16

2012年9月 日和田高原合宿に参加して

白須賀 奈 菜

1. はじめに

私がキノコの魅力にとりつかれたのは、私が中学2年生の冬である。学校の図書館で偶然手に取った図鑑がきっかけであったと思う。関西菌類談話会に入会した2010年、私は中学3年生だった。以来講演会やきのこ展などに参加し、先生方、先輩方にキノコについて一から教えていただいた。

合宿に参加したのは、2012年の日和田高原合宿が初めてで、近畿圏外での採集も初めてであった。どんなキノコに出会えるのだろうかと胸を高鳴らせ、愛用のキノコ採集用カゴを手にバスに乗った。

2. 合宿1日目 9月21日

京都駅を8時に出発し、バスに揺られること6時間、日和田高原に着いた。バスを降りると肌寒く、目の前にはシラカバ林が広がっていた。やはりここに来て狙いたいのはベニテングタケである。荷物を部屋に置いてすぐ獲物を探しに出た。しばらく歩くと立派なカラカサタケが出迎えてくれた。カラカサタケの柄を握りもって、キノコの採集を再開したが、ロッジへ戻るまで柄は折れず、まさに「にぎりたけ」であった(図1)。その後、アカヤマドリ、キソウメンタケ、チチタケ、ツギハギハツ等を採集した。残念ながらベニテングタケは見つけられなかったが、綺麗な紫色をしたベニタケ属のキノコを見つめることができ



図1 カラカサタケと私

た。上田俊穂先生にお聞きしたところ、学名は *Russula violacea* というキノコであると教えて下さった。

ロッジへ戻るとたくさんのキノコが机に並べられていた。一際目立つ巨大なキノコが目止まる。巨大なツルタケ(のようなもの)である。傘は顔ほどの大きさがあり、柄は太く長い。その場ではカップツルタケと呼ばれていた。傘の縁の条線が目立つことが由来であるらしいが、一体何者だったのか今でも気になる。

他にもタマゴタケ、ヒメベニテングタケ等の愛らしいキノコや、カンバタケ、アオネノヤマイグチ、フサクギタケ、ツノシメジといった、関西では見られないキノコが並んでいた。

夜はスライド大会で諸先輩方のお話を拝聴し、その後コテージでの乾燥標本作製のお手伝いをさせていただいた。

3. 合宿2日目 9月22日

午前中、前日とは別の林を歩き回った。ヒメベニテングタケやツチカブリ等を見つけた。途中、信州きのこの会の方に車に乗せていただき、少し離れた雑木林を散策したりもした。

午前中にベニテングタケが見つかったと聞き、次こそは私がと午後から一人、黙々と地面に這いつくばって探したが、見つからない。そう簡単にはキノコは振り向いてはくれないようだ。ドクツルタケ、タケハリカビの生えたチシオタケ(図2)、ニカワハリタケ等を見つけた。

ロッジへ戻ると、前日に増して多くのキノコが並んでいた。ハナガサタケ、ヤギタケ、クマシメジ、クロラップタケ、クロハツなどの珍しいキノコが見られた。そして、ベニテングタケが3個体見つかった(図3)。写真でしか見たことのない鮮やかな赤色に感動した。合宿でどうしても見たいキノコであったので、嬉しかったが、自分で見つけられなかったのは悔しかった。

夜は前日と同じく、スライド大会があり、その後乾燥標本作製のお手伝いをさせていただいた。その際佐久間さんや丸山さん、森本先生、橋本先



図2 タケハリカビの生えたチシオタケ



図3 憧れのベニテングタケ

生に、それらのキノコに関してご教授いただいた。

4. まとめ

2泊3日の合宿で観察することができたキノコは209種。多種多様なキノコが机の上にずらりと並んだ光景は、まさに壮観であった。初めて出会うキノコばかりで感動した。

合宿では先生方、先輩方から直接キノコについ

て教えていただき、また普段の高校生活ではできないキノコに関する話題でお話しすることができ、楽しい時間を過ごすことができた。それと同時に、自身の勉強不足も痛感した。また、乾燥標本作製のお手伝いをさせていただいた際には、乾燥させる時間、スライスの方法など、自分が普段作っている標本の改善点を見つけることができた。キノコに関して様々な方面から学ぶことのできた3日間だった。

合宿を通して感じたのは、キノコについて学ぶには、自宅で図鑑を眺めているだけではいけないということである。自分の目で見なければ気付くことのできない特徴があることや、同じ種における個体差の大きさを改めて認識した。

今回の合宿は、1日中キノコのことを考えて過ごすことのできた、私にとってとても幸せな3日間であった。キノコについてもっと知りたい、もっと多くのキノコを見てみたいという思いが強くなった。こういった場に高校生の私が参加させていただけるのは、本当に有り難く、貴重な経験をさせていただいた。今回の体験を生かし、これからもキノコと向き合っていきたい。

5. おわりに

この文章は、私が高校2年生の時に書いたものである。私は現在、鳥取大学農学部生物資源環境学科に通い、菌類について学んでいる。中学生の頃キノコに興味を持って以来、中学・高校・大学と、キノコに夢中な学生生活を送ってきた。キノコについて学ぶ機会を下さり、何も知らない私に一からキノコについて教えてくださった関西菌類談話会の先生方、先輩方に、この場を借りて感謝申し上げます。

(2013年1月3日受付)

上田俊穂さんをしのぶ

横山和正

2013年9月15日にご逝去のメールを受けました。17日の夜に執り行なわれた告別式で、お別れするとは夢にも思いませんでした。学会関係の方、学

校関係の方々の他に、別れを告げに参集された地域の方々の多さに驚きました。読経の後、僧侶の方が短いスピーチをされました。以前、上田家の

法要の際に、上田俊穂氏から手紙をいただいた。それには滋賀のお寺から長岡京市の上田氏のお宅までの詳細な道順の地図が同封されていた。しかも、道順が何コースにもわたって、書かれていたという内容でした。こんなていねいな地図は自分も生まれてはじめていただいたという内容のスピーチでした。上田さんのお人柄がしのばれる心にしみるお話でした。

同年代の一人として、2, 3 思い出を書かせていただきます。

上田さんも私も大学紛争と2回にわたる安保改定の激動期を経験した同年代の者で、挫折感と同時に、きのこ研究のほとんど行われていない時期だったので、捨て石になるという気持もどこかにあったような気がします。

大学院に入った時に、浜田稔先生が「高校生の時にきのこの研究をしたいと言って相談に来た生徒が2人いる」と言われました。そのお一人が上田さんでした。私はきのこ研究を始めたのは大学院の遅い時期からですから、上田さんは研究上の先輩です。

大阪府立大学の遺伝育種研究室で、きのこの染色体に関する研究を行われ、修士論文を書かれました。その頃から上田さんとは「菌類資料」という冊子を2人が中心になり発行しました。上田さんが原稿をガリ版に書き写し、謄写印刷し、製本し、きのこ仲間提供しました。検索表を翻訳してのせたり、食べたきのこの記録をのせたりして、10数冊発行したと思います。鋼でできたヤスリ版の上にろう紙をのせて、鉄筆で書いていく作業は、大変神経をつかうデリケートな作業で、しかも体力と根気のいる仕事です。何よりもセンスが要求される仕事でもあります。彼はこの部分を全部負担してくれました。私が食べて中毒したシビレタケの種を同定しやすいように比較表を作ってくれました。

大学院を修了し、滋賀大に就職が決まり、私は大津市内に住んでいました。上田さんから自分も以前は大津に住んでいた、しかも長等小学校の卒業であると聞き、びっくりしました。私の子どもたちも同じ小学校に通っていましたので、これも何かのご縁ではないかと感じています。その後、上田さんは高校の先生をしながら、ベニタケの仲間の分類を中心に研究され、きのこの図鑑もたくさん出版されました。私のまわりの滋賀の主婦の

方々までも、きのこ図鑑を通して上田さんのことはよく知っておられ、話題になります。

一時、教壇に立つとふらふらすると相談されたこともありましたが、きのこの保存にパラホルムアルデヒドを使っていたので、肺をやられたようだと話をされました。毎年すてきな版画の年賀状をいただいていたのですが、ご負担になるのではと思います、こちらから差し控えさせていただいた年もありました。

きのこ展の実行委員長を長く勤めていただきました。上田さんのデザイン力と企画力がなかったなら、きのこ展は開催できなかったと思います。毎年きのこ展の実行委員会でお目にかかっていたので、こんなに急にお別れするとは思いませんでした。

最後にメールをいただいたのが2013年3月26日で、お亡くなりになる約6ヶ月前でした。最後までベニタケ属を追求しておられたことをこのメールから強く感じました。以下に、転載させていただきます。

2013/3/26

件名：お教えてください（上田俊穂）

横山和正様

大変長らくご無沙汰いたしております。お元気にお過ごしでしょうか？

当方、このところ体調不良で家でごろごろしています。

さてちょっとおたずねしたいことがあります。だいぶ昔のことなのですがもしご記憶にあらましたらお教えいただけたら幸甚です。

実は *Russula hongoi* Singer のことです。これは *Fiedeliana* の Botany. New Series. No.21, 1989. にある “New Taxa and New Combinations of Agaricales” という論文の中で新種記載されているベニタケです。このきのこには和名はなく、「*Russula brunneola* に似ていて *R. vesca* に類縁がある…」と書かれています。このきのこは1984年9月14日に大文字山で Singer 先生が採集され、*R. hongoi* として新種発表されました。横山様はこの日付けの時に大文字山へ Singer 先生に同行されたまじりましょうか？ そしてこのきのこをご覧になりましたでしょうか？ 辞書を引ながら、この種の記載文を読んでも、このきのこに該当するベニタケの実体がなかなかよくわかりませんので、少しの手がかりでも教えていただきたいメールさせていただ

きました。本郷先生のスケッチや記録の中には該当するものがなく、その日付けの採集品はないそうです（佐久間氏）。蛇足ですが、同じ論文に *Pluteus hongoi* Singer というきのこも新種発表されています。ご多用中申し訳ありませんがどうか宜しくご教示のほどをお願い申し上げます。

上田俊穂

私はメールを拝見しましたが、30年も前のこと。記憶も定かではありませんでした。Singer 先生は何度か京都にも来られましたが、大文字山へは一緒に記憶がないので、フィールドノートをチェックしました。1984年のこの時期は、8月31日から10月28日の約2ヶ月にわたり南米のペルーに海外調査で出張しています。そのことを、お知らせしたところ、以下のご返事をいただきました。

2013/3/28

横山和正様

ご多用のところお手を煩わせました。詳しく調べていただきありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

この夏と秋に大文字山へ行って似たきのこを探してみます。

ありがとうございました。

上田俊穂

以上が上田さんとの最後のメールとなりました。

私には、あの世でシンガー先生に直接お聞きになっている情景が目にかびます。浜田先生、本郷先生、吉見先生はじめ、多くの関西菌類談話会の会員と一緒に、大空を飛びまわり、大文字山などにも立ち寄りながらきのこ採集を楽しんでおられるのではないのでしょうか。

ご冥福をお祈りいたします。

(2014年 5月29日受付)

追記：本稿は関西菌類談話会会報上田俊穂先生追悼号へ寄稿されましたが、天野の不手際で追悼号には掲載されませんでした。横山先生のお心のこもった追悼文をきちんと上田俊穂先生追悼号へ掲載できなかったことで、著者の横山和正先生には不快な思いをさせまたご迷惑をおかけした事を心よりお詫び申し上げます。（天野 典英）

上田俊穂先生との出会いと「津軽旅」

佐野 修 治

「人生の師」を持つことの喜びと幸せを、上田先生に教わった気がします。

新会員の私にとって上田先生は「きのこ」の大先輩として遙か雲の上の存在でした。当時はまだ直接お話をさせていただいたこともなく、愛読していた「検索入門 きのこ図鑑（保育社）」の偉大な著者として、『いつもダンディーでカッコいい人だなあ…』と少し離れたところから拝見していたものでした。

関西菌類談話会会報1993年12月 No.14「四国でのクモタケ *Isaria atypicola* Yasuda の分布」を投稿した折に、拙い原稿を添削して下さったのが上田俊穂編集委員長でした。新婚当時のマンションの

居間で、ダイヤル式の黒い固定電話で交わした上田先生との初めての会話を今もはっきりと覚えています。

上田先生からお誘いをいただいて広島「きのこ展」に出かけたのが初めての個人的な旅でした。四条河原町から出発する夜行バスに乗り込み、二人並んで狭い座席で眠れない夜を過ごしたことを懐かしく思い出します。

ある日、『これ、津軽石です。』と赤と灰色が入り交じったちょっと変わった色の小石を私の掌に乗せてくださいました。それはまるで多色の蠟粘土をこねたような微かに透明感がある丸い石でした。水に濡らすとヌラリとした不思議な色合いに

輝くなんとも言えない魅力を発します。日に日にその小石に魅せられた私はその後なんども『津軽に連れて行ってください』と厚かましくも懇願することになり、数年後、上田先生との「津軽旅」が実現することになりました。

メンバーは上田先生と先生の教職員時代の同僚の磯部南海雄先生と私の熟年男性三人。2006年3月23日、それぞれが大きなリュックを背負ってJR京都駅で集合し、ブルートレイン「日本海1号」の車中の人となり夜行列車で旅立ちました。津軽は思惑通り、まだ厳しい冬の名残と早春の兆しが入り混じった季節の変わり目でした。

上田先生が事前にご準備してくださった「旅の葉」は素晴らしいものでした。日々のスケジュールに沿った名所見所の詳しい解説やルートの拡大地図が順を追って用意されていました。日々の行程表には覚書のスペースがあり、歩き進んだ道筋の些細な出来事や景色の美しさ、感動を覚えた時の心の動きなどもメモを取りつつ歩いたものです。この葉のおかげで思い出になる地元のちょっとした資料や、晩酌用の地酒やおつまみの買い出しのレシートなども全て添付して残すことが出来ました。痒いところに手が届く！そんなすべての段取りをしてくださった四泊五日の「津軽歩き旅」は私にとって生涯忘れられない人生の宝となった日々でした。

上田先生のお勧めを受けて旅行記を執筆しました。半年もかかりましたが、楽しくて有意義だった唯一無二の旅の出来事を「津軽旅日記」として我が家族に書き残せたことを嬉しく思っています。



写真1 上田先生手作りの旅の葉「津軽」と三人の「旅行記」と大切な「津軽石」

す。上田先生のご親切なご指導の賜物と心から感謝しています。

その後、「津軽会」と称して春のお花見や秋の紅葉狩りそして冬は鍋料理で新年会と、毎年四季折々三人集っては上田先生のご実家で男のささやかな手料理を肴に和やかな宴を楽しみました。家族のこと孫のこと、自然のこと仕事のこと…、本当にたくさんの教をいただきました。

津軽の旅から5年後、還暦を迎えた定年退職を機に四国八十八箇所の「歩き遍路」を始めた折も、上田先生は出立の日から一日も欠かさず毎日携帯メールで励まし続けてくださいました。弘法大師様が歩かれた険しい修行の道と言われる「旧遍路道」を歩く私のプランを心配下さり、順路を先回りして翌日のコースの山谷の危険箇所の注意点や通過点の名所旧跡を見逃さないようにと教えて下さいました。また猛暑故の水分と塩分補給の効率の良い摂取方法に至るまで、疲れを和ませるためのユーモアを交えての毎夜の遍路宿での交信は過酷で孤独な一人旅の大きな心の支えとなりました。

お遍路は弘法大師様との「同行二人」と言われていますが、私にとっては「同行三人」でした。上田先生と共に歩いた「結願」までの43日間、四国から続けて歩いた高野山奥の院までの46日目の「満願成就」は上田先生の支援があってこそ達成でした。津軽の旅とはまた違った上田先生の「真心」をいただいた感謝と感動の旅でした。

遍路途中、介護の専門学校への入学試験の為に一旦帰宅した折、ちょうど磯部先生の「書展」と重なり、会場で上田先生と待ち合わせて素晴らしい



写真2 「書展」磯部南海雄先生 上田俊穂先生 佐野修治（四国歩き遍路の途中）

い書を鑑賞し、久しぶりに「津軽会」の集いを楽しみました。

上田先生は「根付」にもご興味を持っておられ、壬生寺の近くにある京都清宗根付館で春夏秋冬開催される特別企画展に毎年ご一緒させていただきました。象牙や鹿の角などに施された小さな根付の細工の素晴らしさに魅入っては二人して溜め息を漏らせたものです。見るだけではなく上田先生はご自身で芸術性の高い様々の美術作品をたくさん作成されておられます。

きのこ展開催記念品の「きのこ日本手ぬぐい」はファンが多く毎年楽しみにされていますし、全国のきのこ仲間の皆さんの中にも上田先生の手作り作品をお持ちの方が沢山おられると思います。我が家のきのこ部屋には「上田俊穂先生の作品」を集めた専用棚があります。ロクシヨウグサレキンの菌糸で染まった枝を彫った緑青色のソライロタケ、珊瑚の一種クサビライシで傘のヒダを模したヒビワレシロハツ、本物そっくりの木彫りの栗や団栗の実、他にも手描きの茸絵や珍しい石や砂、自ら彫金されたきのこ型ペンダントは私の休日の癒しグッズとしていつも感謝して愛用しています。

上田先生は関西菌類談話会の会長や役員を始め、京都府立植物園で毎年開催される「きのこ展」の実行委員長など長年要職を歴任され、また各地で催される「きのこ観察会」の講師も引き受けられて地域の社会貢献もされておられました。

特に「ベニタケ類」のきのこ研究は日本の第一

人者で日本全国の菌類研究者、そして、きのこ愛好者にとって大きな存在でした。

そんな偉大な菌類研究者でありながら、いつも謙虚で控え目で、気さくに誰にでも分け隔てなく心優しいお気遣いをして下さる先生でした。誰からも尊敬され慕われる、そして頼られる先生でした。

私は「きのこ」のみならず、公私ともに語り尽せないほどの多くのご指導や楽しい時間をいただきました。私の10年先の歩みを示して下さいた上田先生には、人生を「どう生きるか？」を教えていただきました。そして闘病でお辛い中でも最後まで頭脳明晰で頑張り通された凛とした立派なお姿に接し、人生を「どう終えるか？」も学ばせてくださった気がします。

上田先生、いろいろお世話になりました。本当にありがとうございました。

(2014年 5月30日受付)

追記：本稿は関西菌類談話会会報上田俊穂先生追悼号へ寄稿されましたが、天野の不手際で掲載されませんでした。佐野修治様のお心のこもった追悼文がきちんと追悼号へ掲載されなかったことで、佐野修治様には不快な思いをさせまご迷惑をおかけした事を心よりお詫び申し上げます。(天野 典英)

きのこの日本語論文をまずは無料で読んでみよう (1)

アマチュアのためのインターネット論文活用のススメ CiNii を使ってみよう

佐久間 大 輔

論文を探す目的

図鑑を読むしかなかった一昔前に比べ、きのこについての情報は随分と充実してきています。いろいろな書籍も出ています。インターネットのブログや掲示板にも様々な情報がでています。しか

し、本当なのかな？と思う情報も時にはありますし、どうやって確かめられたのだろうと疑問に思うことも中にはあります。そうした中であって学術論文は、これまでの背景や課題になっているポイントを引用文献とともに示し、方法を明示した

上で証拠となるデータや写真, 図, 判断の根拠となる論理を示し, 客観的に筋が通っているかどうか審査を経て公表されるものです。論文の信頼性は内容や審査の手続きによって担保されているものです (もちろん, 昨今の報道のように審査は完全ではありませんが)。

どこの誰が書いているかは, 論文の信頼性とは関係ありません。科学の世界では国際的に通用する重要な成果は英語の論文にして発表することが通例ですが, 日本語の論文は国内のアマチュアや違う分野の研究者にも読んで欲しいという意図で書いたものが多く理解しやすいものもたくさんあります。日本語であっても, 多くの論文は目的や研究手法が明確にされ, データや記録とともに, 参考にした別の論文の情報がのっています。日本語の論文を読み慣れることで, 英語の論文の読み方もわかってくるでしょう。自分で何か記録や報告を書かなければならないときに参考にもできます。難しい, と思っても書かれているのは日本語です。じっくり読みこなしてみませんか?

しかも, こうした文献が大学図書館まで行かずとも, 家でソファに座って探したり読んだりできる時代になりました。インターネットなどでの情報公開が進んだおかげで「無料で」「だれでも」読める論文の数は桁違いに増えています。特に古

い論文はこれまでの研究成果を知る上で宝箱のような存在です。これをのぞいて見ることで, 皆さんのきのご観察にもなにか新しいヒントが見つかるかもしれません。そこで皆さんが宝箱を気軽に覗いてもらえるようにインターネットを利用して日本語で書かれた論文の探し方を紹介したいと思います。

きのこに関する論文はどんな雑誌に載っている?

表1に示したのはきのこを取り扱う (ことがある) 学会の日本語雑誌です。それぞれに, 生産技術に強いとか, 新種記載が多いとか, 生態の話が多いなど, 特色があります。各学会ではこれ以外に英文誌も出版している場合が多いですが, インターネットには要旨部分 (もちろん英文) のみを公開している場合が多いようです。

しかし, 過去何十年にもわたり, 年に何冊も出されているこれらの雑誌から自分の読みたい論文をどうやって探したらいいのでしょうか。おびただしい論文の中から, 自分の興味にあった論文を探すには多少テクニックがあります。それでも今はインターネット上で簡単に検索ができるようになり, 目次などを丹念に読んで探していたホンの20年ほど昔に比べれば相当楽になりました。

表1. CiNii で検索できるきのこ関連の和文論文誌

	CiNii で 検索できる	本文閲覧	備考
日本菌学会会報	○	×	論文本文は菌学会が DVD 販売, 近年のものは会員限定サイトで公開。大会講演要旨は J-Stage で閲覧できる
日本きのこ学会会報 (旧応用きのこ学会)	○	●	
分類: bunrui (旧植物分類・地理)	○	◎	
日本森林学会誌 (旧日本林学会会報)	○	◎	本文は J-Stage へのリンク, 大会講演要旨は J-Stage
植物学雑誌	○	◎	J-stage へのリンクで1971年分まで本文閲覧可能
植物研究雑誌	△	×	本文は現状では公開していない。
日本生態学会誌	○	◎	大会講演要旨は独自サイトで公開
森林総合研究所 (旧林業試験場) 研究報告	○	▲	近年のものは日本農学文献記事索引で公開, 林業試験場時代のものは森林総研サイトで公開
菌叢研究所研究報告	○	▲	日本農学文献記事索引へのリンクで公開 (一部)
滋賀大学紀要ほか	○	◎	リンクで公開
国立科学博物館研究報告 B 類	△	▲	CiNii 公開は2006年までであり, それ以降は科博サイトで公開
千葉県立中央博物館自然誌研究報告	△	×	一部論文のみ中央博サイトで公開
大阪市立自然史博物館研究報告	○	◎	リンクで公開

○全て公開

△引用された情報など一部が検索可能

▲一部が公開

◎当該年度内に公開

●過年度, または2年前のものから公開

×本文はネット公開されていない

インターネットのあちこちにある論文の探し方

インターネット上のあちこちにある論文の中から必要な論文を探して読みたい時に、どこにあるかを予め知っていれば楽ですが、どこにあるか、誰の何という論文かわからないときに、それを探す「入り口」をご紹介します。最初にご紹介するのは日本の大学のインターネットの要を担っている国立情報学研究所が運営する CiNii (サイニィ) です。http://ci.nii.ac.jp と打ち込んでも検索エンジンで CiNii とかサイニィと検索してもすぐに見つかります。画面は非常にシンプルです(図1)。中央のボックスに何か言葉を入れて、リターンキーを押すか、論文検索ボタンを押してみましょう。例えば「ベニタケ」と入れて検索すると図2のようにたくさんの論文が出てきます。初期設定では検索窓左上の「論文検索」が選択されていて、論文タイトル、要旨、著者、キーワード、雑誌名などに含まれている語でヒットした文献が表示されてきます。論文タイトルをクリックすると論文についての情報がもう少し詳しく読めます。雑誌名などが書かれた下に黄色いボックスで書かれた「CiNii オープンアクセス」とか、「機関リポジトリ」「日本農学文献記事索引」「CiNii 外部リンク」「J-STAGE」と書かれた部分に着目してください。これらは無料で公開されている論文です。CiNii オープンアクセスは各学会から許可を受けて CiNii サーバーから無償公開されている

もの、その他は各大学、機関や農水省など他の機関で公開されているものへのリンクになっています。黄色いボックスを直接クリックしても、詳細画面(図3)から、上記の文字が書かれたリンクボタンを押しても本文が表示されます。どんどんクリックしてざっと見て、気になる論文は印刷したりハードディスクにダウンロードしたりしてじっくり読むといいでしょう。

しかし、すべての論文が無料公開されているわけではありません。「定額アクセス可能」や「有料公開」とされた論文は文字通り、有料で公開されている論文です。「定額アクセス」とは大学などの一括契約している機関では無料で見られるという制度です。ただ間違えてクリックしても手続きはそれなりに複雑でいきなり請求という事態にはなりませんのでご安心ください。有料でも読みたい、という時には画面に従って手続きしてください。しかし、有償公開もされていない論文はまだあります。CiNii の面白いのは、他の論文に引用されていた論文や本もデータとして集めて検索対象にしていることです。ですので、こんな論文があるんだ、と気づかせてくれる効果があります。誰がいつどこに書いた論文かがわかれば、大学図書館などで取り寄せることも可能で、入手への道が開けてきます。

検索ボックス上の「著者検索」と書かれた部分ををクリックすると著者名での検索だけに機能を絞



図1 CiNii ホームページ



図2 CiNii 検索結果



図3 CiNii 詳細画面

ります。「全文検索」で検索すると（全文の文章入力ができているものを対象に）本文全体を対象とした検索ができます。このため同じベニタケで検索しても、論文検索と全文検索では出てくる論文がだいぶ違います。検索語を入力する時「ベニタケ 本郷」など、スペースで区切って入力す

ばその両方が含まれる検索結果だけを見つけることができます。面白い論文を見つけたら、その論文に引用されている論文を探してみるのもよいでしょう。まずは習うより慣れろ、いろいろと試してみてください。

2012年度 活動の記録

第505回例会 箕面公園菌類観察会

日時：2012年7月15日（日）快晴

56名参加

場所：大阪府箕面市箕面公園南部
(シイ・カシ林)

毎年、観察会のスタートとなる箕面観察会は梅雨末期で、天候が心配される反面、キノコにとってはベストシーズンだが、昨年に続き、炎天下での観察会であった。林内も乾燥模様で、全体的にキノコも少なく見受けられたが、同定会場の休憩所には多くの種が集まり、計100種が観察できた。いつものように名前の付かないベニタケ類やイグチ、テングタケが中心であったが、フウセンタケの仲間が数種確認できたのは意外であった。特に、あまり馴染みのなかった「チャナバ」が多く採取できたのが印象に残った。(山田裕司)

観察品リスト

- | | |
|---|--------------|
| 1 <i>Laccaria amethystea</i> ? | ウラムラサキ? |
| 2 <i>Laccaria vinaceoavellanea</i> | カレバキツネタケ |
| 3 <i>Collybia</i> sp. | モリノカレバタケ属 |
| 4 <i>Oudemansiella pudens</i> | ピロードツエタケ |
| 5 <i>Oudemansiella platyphylla</i> | ヒロヒダタケ |
| 6 <i>Amanita farinosa</i> | ヒメコナカブリツルタケ |
| 7 <i>Amanita gemmata</i> | ウスキテングタケ |
| 8 <i>Amanita sychnoopyramis</i> f. <i>subannulata</i> | テングタケダマシ |
| 9 <i>Amanita pantherina</i> | テングタケ |
| 10 <i>Amanita ceciliae</i> | テングツルタケ |
| 11 <i>Amanita vaginata</i> | ツルタケ |
| 12 <i>Amanita longistriata</i> | アカハテングタケ |
| 13 <i>Amanita pseudoporphyria</i> | コテングタケモドキ |
| 14 <i>Amanita rubescens</i> | ガンタケ |
| 15 <i>Amanita spissacea</i> | ヘビキノコモドキ |
| 16 <i>Amanita alboflavesces</i> | キウロコテングタケ |
| 17 <i>Amanita</i> sp. | テングタケ属 |
| 18 <i>Agaricus praeclaresqiamosus</i> | ナカグロモリノカサ |
| 19 <i>Agaricus</i> sp. | ハラタケ属 |
| 20 <i>Squamanita umbonata</i> | カブラマツタケ |
| 21 <i>Inocybe lutea</i> | キイロアセタケ |
| 22 <i>Inocybe asterospora</i> ? | カブラアセタケ? |
| 23 <i>Hebeloma vinosophyllum</i> | アカヒダワカフサタケ |
| 24 <i>Cortinarius subalboviolaceus</i> | ウスムラサキフウセンタケ |
| 25 <i>Cortinarius nigrosquamosus</i> | オニフウセンタケ |
| 26 <i>Cortinarius pseudosalor</i> | ヌメリササタケ |
| 27 <i>Cortinarius corrugatus</i> | チャナバ |
| 28 <i>Strobilomyces confusus</i> | オニイグチモドキ |
| 29 <i>Strobilomyces verruculosus</i> | ツブカサオニイグチ |
| 30 <i>Strobilomyces hongoi</i> | アミアシオニイグチ |
| 31 <i>Auroboletus subvirens</i> | オオヤシャイグチ |
| 32 <i>Boletellus emodensis</i> | キクバナイグチ |
| 33 <i>Heimiella japonica</i> | ベニイグチ |
| 34 <i>Gyroporus punctatus</i> | ピロードクリイロイグチ |

- | | |
|--------------------------------------|---------------|
| 35 <i>Phylloporus bellus</i> | キヒダタケ |
| 36 <i>Aureoboletus thibetanus</i> | ヌメリコウジタケ |
| 37 <i>Boletus reticulatus</i> | ヤマドリタケモドキ |
| 38 <i>Boletus violaceofuscus</i> | ムラサキヤマドリタケ |
| 39 <i>Boletus aokii</i> | ヒメコウジタケ |
| 40 <i>Boletus subvelutipes</i> | アメリカウラベニイロガワリ |
| 41 <i>Tylopilus chromapes</i> | アケボノアワタケ |
| 42 <i>Tylopilus virens</i> | ミドリニガイグチ |
| 43 <i>Tylopilus ballouii</i> | キニガイグチ |
| 44 <i>Tylopilus ferrugineus</i> ? | チャニガイグチ? |
| 45 <i>Tylopilus argillaceus</i> | アシボソニガイグチ |
| 46 <i>Leccinum extremiorientale</i> | アカヤマドリ |
| 47 <i>Russula japonica</i> | シロハツモドキ |
| 48 <i>Russula nigricans</i> | クロハツ |
| 49 <i>Russula albonigra</i> s.l. | シロクロハツ (広義) |
| 50 <i>Russula densifolia</i> | クロハツモドキ |
| 51 <i>Russula compacta</i> | アカカバイロタケ |
| 52 <i>Russula laurocerasi</i> ? | クサハツモドキ? |
| 53 <i>Russula senecis</i> | オキナクサハツ |
| 54 <i>Russula pectinatoides</i> | ニセクサハツ |
| 55 <i>Russula sororia</i> | キチャハツ |
| 56 <i>Russula cyanoxantha</i> | カワリハツ |
| 57 <i>Russula heterophylla</i> | ウグイスハツ |
| 58 <i>Russula mariae</i> | ニオイコベニタケ |
| 59 <i>Russula amoena</i> | ムラサキカスリタケ |
| 60 <i>Russula amoenicolor</i> | (和名なし) |
| 61 <i>Russula violeipes</i> | ケショウハツ |
| 62 <i>Russula flavida</i> | ウコンハツ |
| 63 <i>Russula virescens</i> | アイタケ |
| 64 <i>Russula alboareolata</i> | ヒビワレシロハツ |
| 65 <i>Russula castanopsidis</i> | カレバハツ |
| 66 <i>Russula lilacea</i> | ウスムラサキハツ |
| 67 <i>Russula sanguinea</i> | チシオハツ |
| 68 <i>Russula kansaiensis</i> | ヒナベニタケ |
| 69 <i>Lactarius uyedae</i> | ヒメシロチチタケ |
| 70 <i>Lactarius volemus</i> | チチタケ |
| 71 <i>Lactarius hygrophoroides</i> | ヒロハチチタケ |
| 72 <i>Lactarius gerardii</i> | クロチチダマシ |
| 73 <i>Lactarius castanopsidis</i> | ヒカゲヒメチチタケ |
| 74 <i>Lactarius gracilis</i> | アシボソチチタケ |
| 75 <i>Lactarius camphoratus</i> | ニセヒメチチタケ |
| 76 <i>Lactarius</i> sp. | モチゲチチタケ |
| 77 <i>Lactarius</i> sp. | チチタケ属 |
| 78 <i>Cantharellus minor</i> | ヒナアンズタケ |
| 79 <i>Cantharellus</i> sp. No1 | アンズタケ属 No1 |
| 80 <i>Cantharellus</i> sp. No2 | アンズタケ属 No2 |
| 81 <i>Stereum ostrea</i> | チャウロコタケ |
| 82 <i>Xylobolus spectabilis</i> | モミジウロコタケ |
| 83 <i>Fistulina hepatica</i> | カンゾウタケ |
| 84 <i>Polyporus varius</i> | キアシグロタケ |
| 85 <i>Polyporus badius</i> | アシグロタケ |
| 86 <i>Pycnoporus coccineus</i> | ヒイロタケ |
| 87 <i>Daedalea dickinsii</i> | ホウロクタケ |
| 88 <i>Cyclomyces fuscus</i> | ワヒダタケ |
| 89 <i>Astraeus hygrometricus</i> | ツチグリ |
| 90 <i>Hydnangium</i> sp. | コイシタケ |
| 91 <i>Tremella mesenterica</i> | コガネニカワタケ |
| 92 <i>Dicelphalospora rufocornea</i> | ニセキンカクアカビョウタケ |
| 93 <i>Cordierites frondosa</i> | クロハナビラタケ |
| 94 <i>Microstoma floccosa</i> | シロキツネノサカズキ |
| 95 <i>Helvella elastica</i> | アシボソノポリリュウ |
| 96 <i>Helvella macropus</i> | ナガエノチャワンタケ |
| 97 <i>Aleurina imaii</i> | (和名なし) |
| 98 <i>Cordyceps annullata</i> | ヒメクチキタンポタケ |
| 99 <i>Isaria atypicola</i> | クモタケ |
| 100 <i>Endogone</i> sp. | (和名なし) |

第506回例会 檀原神宮菌類観察会

日時：2012年8月19日（日）晴
 34名参加
 場所：奈良県檀原市檀原神宮境内
 （シイ・カシ林）

真夏の檀原神宮での観察会は初めてか、猛暑であまりキノコの発生は期待できない季節であるが、34名の参加者があり、少ないながらもキノコが集まった。柔らかいキノコは少なく、硬質菌が多い印象。冬虫夏草も2種採集されていた。兎の糞から発生するハチスタケが採集されていて、みんなで観察や撮影をした。採集したキノコで状態の良い物は、大阪市立自然史博物館で標本にしてもらうよう依頼した。（丸山健一郎）

観察品リスト

- | | |
|--------------------------------------|---------------|
| 1 <i>Schizophyllum commune</i> | スエヒロタケ |
| 2 <i>Marasmiellus candidus</i> | シロホウライタケ |
| 3 <i>Oudemansiella radicata</i> | ツエタケ |
| 4 <i>Amanita vaginata</i> | ツルタケ |
| 5 <i>Amanita longistriata</i> | タマゴテングタケモドキ |
| 6 <i>Pluteus leoninus</i> | ベニヒダタケ |
| 7 <i>Pluteus</i> sp. | ウラベニガサ属 |
| 8 <i>Leucocoprinus fragilissimus</i> | キツネノハナガサ |
| 9 <i>Agaricus</i> sp. | ハラタケ属 |
| 10 <i>Psathyrella candolleana</i> | イタチタケ |
| 11 <i>Crepidotus badiofloccosus</i> | クリゲノチャヒラタケ |
| 12 <i>Phylloporus orientalis?</i> | (和名なし) |
| 13 <i>Boletus reticulatus</i> | ヤマドリタケモドキ |
| 14 <i>Boletus ornatipes</i> | キアミアシイグチ |
| 15 <i>Boletus fraternus</i> | コウジタケ |
| 16 <i>Boletus subvelutipes</i> | アメリカウラベニイロガワリ |
| 17 <i>Russula sororia</i> s.l. | キチャハツ (広義) |
| 18 <i>Russula heterophylla?</i> | ウグイスハツ? |
| 19 <i>Lactarius subvellerus</i> | ケシロハツモドキ |
| 20 <i>Xylobolus spectabilis</i> | モミジウロコタケ |
| 21 <i>Polyporus arcularius</i> | アミスギタケ |
| 22 <i>Polyporus badius</i> | アシグロタケ |
| 23 <i>Microporus subaffinis</i> | ツヤウチワタケモドキ |
| 24 <i>Microporus affinis</i> | ウチワタケ |
| 25 <i>Laetiporus versisporus</i> | ヒラフスベ |
| 26 <i>Oligoporus caesius</i> | アオゾメタケ |
| 27 <i>Postia japonica?</i> | ヤマトシロイタケ? |
| 28 <i>Daedalea dickinsii</i> | ホウロクタケ |
| 29 <i>Trametes versicolor</i> | カワラタケ |
| 30 <i>Daedaleopsis tricolor?</i> | チャカイガラタケ? |
| 31 <i>Perenniporia ochroleuca</i> | ウズラタケ |
| 32 <i>Rigidoporus lineatus</i> | スルメタケ |
| 33 <i>Abundisporus pubertatis</i> | ホウネンタケ |
| 34 <i>Ganoderma lucidum</i> | マンネンタケ |
| 35 <i>Elfvigia applanata</i> | コフキササルノコシカケ |
| 36 <i>Cryptoderma substygium</i> | キヌハダタケモドキ |
| 37 <i>Phellinus gilvoides</i> | ネンドタケモドキ |
| 38 <i>Auricularia polytricha</i> | アラゲキクラゲ |
| 39 <i>Basidiomycota</i> sp. | 針状子実層の不明菌 |
| 40 <i>Diccephalospora rufocornea</i> | ニセキンカクアカビョウタケ |
| 41 <i>Cordyceps</i> sp. | イトヒキミジンアリタケ |
| 42 <i>Cordyceps nutans</i> | カメムシタケ |
| 43 <i>Xylaria</i> sp. | マメザヤタケ属 |
| 44 <i>Hypoxylon truncatum</i> | クロコブタケ |
| 45 <i>Podosordaria jugoyasana</i> | ハチスタケ (兎糞上) |

第507回例会 龍谷の森菌類観察会

日時：2012年9月9日（日）晴
 36名参加
 場所：滋賀県大津市龍谷の森
 （コナラ中心の雑木林）

9月初旬というのはまだまだ暑く、山もやや乾燥気味だった。それでも、テングタケ属、イグチ類を中心に採集できた。この時期、他の採集地では、乾燥であまり採集できないという話を聞いていた割には、多くの種を採集できたようだ。例年のように源内峠コースと龍谷の森コースの二つに分かれて採集記録した。源内峠コース50種、龍谷の森コース55種、両コースを統合し、重複したものを省くと、87種となった。テングタケ属を正井俊郎氏が、イグチ類を森本繁雄が解説を行い、その他の種について、梶山直樹氏、小寺祐三氏、佐久間大輔氏などが解説を行い、解散した。

(森本繁雄)

龍谷の森観察品リスト

- | | |
|---|-----------------|
| 1 <i>Gerronema nemorale</i> | オリーブサカズキタケ |
| 2 <i>Collybia dryophila</i> | モリノカレバタケ |
| 3 <i>Collybia</i> sp. No1 | モリノカレバタケ属 No1 |
| 4 <i>Collybia</i> sp. No2 | モリノカレバタケ属 No2 |
| 5 <i>Marasmiellus candidus</i> | シロホウライタケ |
| 6 <i>Xerula</i> sp. | ビロードツエタケ |
| 7 <i>Marasmius pulcherripes</i> | ハナオチバタケ |
| 8 <i>Marasmius cohaerens?</i> | ミヤマオチバタケ? |
| 9 <i>Xeromphalina campanella</i> | ヒメカバイロタケ |
| 10 <i>Amanita rufoferruginea</i> | カバイロコナテングタケ |
| 11 <i>Amanita subjunquillea</i> var. <i>alba</i> | ドクツルタケ |
| 12 <i>Amanita oberwinklerana</i> | ニオイドクツルタケ |
| 13 <i>Amanita pseudoporphyrina</i> | コテングタケモドキ |
| 14 <i>Amanita neoovoidea</i> | シロテングタケ |
| 15 <i>Amanita japonica</i> | ハイイロオニタケ |
| 16 <i>Amanita alboflavesces</i> | キウロコテングタケ |
| 17 <i>Amanita castanopsidis</i> | コシロオニタケ |
| 18 <i>Amanita timida</i> var. <i>suouensis</i> ined | スオウシロオニタケ |
| 19 <i>Amanita kotohiraensis</i> | コトヒラシロテングタケ |
| 20 <i>Amanita grandicarpa</i> | オオオニテングタケ |
| 21 <i>Amanita</i> sp. | テングタケ属 |
| 22 <i>Leucocoprinus fragilissimus</i> | キツネノハナガサ |
| 23 <i>Lepiota</i> sp. | キツネノカラカサ属 |
| 24 <i>Psathyrella candolleana</i> | イタチタケ |
| 25 <i>Inocybe lutea</i> | キイロアセタケ |
| 26 <i>Crepidotus</i> sp. No1 | チャヒラタケ属 No1 |
| 27 <i>Crepidotus</i> sp. No2 | チャヒラタケ属 No2 |
| 28 <i>Simocybe</i> sp. | キチャムクエタケ (仮称) |
| 29 <i>Paxillus atrotomentosus</i> | ニワタケ |
| 30 <i>Boletellus emodensis</i> | キクバナイグチ |
| 31 <i>Boletellus obscurecoccineus</i> | ミヤマベニイグチ |
| 32 <i>Boletaceae</i> sp. | ニセヌメリコウジタケ (仮称) |
| 33 <i>Boletaceae</i> sp. | オオアワタケ (仮称) |
| 34 <i>Boletus auripes</i> | キアミアマドリタケ |
| 35 <i>Boletus subcinnamomeus</i> | サザナミイグチ |
| 36 <i>Boletus ornatipes</i> | キアミアシイグチ |
| 37 <i>Boletus</i> sp. | フリルイグチ (仮称) |
| 38 <i>Tylopilus otsuensis</i> | コビチャニガイグチ |
| 39 <i>Tylopilus valens</i> | ホオベニシロアシイグチ |

第508回例会 日和田高原菌類観察会

日 時：2012年 9月21日（金）～23日（日）

晴～雨 37名参加

場 所：岐阜県日和田高原

（シラビソ・コムツガなど）

広島から変わって、日和田高原での1回目の合宿観察会。京都駅からの貸切バスチャーターしてのツアーになった。現地集合や途中からバスに乗られる方もあり、当日、日和田高原ロッジに全員が集まるまでは、世話役はちょっと落ち着かなかった。最終日には雨が降ったが、初日と2日目は天気も持ち、シラカバ林の気持ちよい採集観察会を楽しむことができた。信州きのこの会の方々と交流ができた。採集標本の多くは、現地に持ち込んだ乾燥機で乾燥させ、大阪市立自然史博物館へ持ち帰っていただいた。（丸山健一郎）

観察品リスト

- | | |
|--|-------------|
| 1 <i>Pleurotus pulmonarius</i> | ウスヒラタケ |
| 2 <i>Neolentinus lepideus</i> | マツオウジ |
| 3 <i>Hygrophorus russula</i> | サクラシメジ |
| 4 <i>Hygrophorus camarophyllus</i> | ヤギタケ |
| 5 <i>Hygrophorus</i> sp. | スメリガサ属 |
| 6 <i>Camarophyllus pratensis</i> | ハダイロガサ |
| 7 <i>Hygrocybe conica</i> | アカヤマタケ |
| 8 <i>Hygrocybe aurantia</i> | ヒメダイダイタケ |
| 9 <i>Lyophyllum connatum</i> | オシロイシメジ |
| 10 <i>Laccaria amethystea</i> | ウラムラサキ |
| 11 <i>Laccaria bicolor</i> | オオキツネタケ |
| 12 <i>Laccaria</i> sp. | キツネタケ属 |
| 13 <i>Clitocybe clavipes?</i> | ホテイシメジ? |
| 14 <i>Clitocybe</i> sp. | カヤタケ属 |
| 15 <i>Tricholomopsis decora</i> | キサマツモドキ |
| 16 <i>Tricholoma saponaceum</i> | ミドリシメジ |
| 17 <i>Tricholoma sejunctum</i> | アイシメジ |
| 18 <i>Tricholoma virgatum</i> | ネズミシメジ |
| 19 <i>Tricholoma terreum</i> | クマシメジ |
| 20 <i>Armillariella mellea</i> | ナラタケ |
| 21 <i>Armillariella mellea</i> s.l. | ナラタケ（広義） |
| 22 <i>Armillaria</i> sp. | キツブナラタケ |
| 23 <i>Arrhenia</i> sp.? | 和名なし? |
| 24 <i>Pleurocybella porrigens</i> | スギヒラタケ |
| 25 <i>Collybia dryophila</i> | モリノカレバタケ |
| 26 <i>Collybia peronata</i> | ワサビカレバタケ |
| 27 <i>Collybia</i> sp. | モリノカレバタケ属 |
| 28 <i>Panellus stypticus</i> | ワサビタケ |
| 29 <i>Panellus serotinus</i> | ムキタケ |
| 30 <i>Oudemansiella platyphylla</i> | ヒロヒダタケ |
| 31 <i>Mycena galericulata?</i> | クヌギタケ? |
| 32 <i>Mycena alcalina?</i> | アクニオイタケ? |
| 33 <i>Mycena haematopoda</i> | チシオタケ |
| 34 <i>Mycena pura</i> | サクラタケ |
| 35 <i>Mycena</i> sp. | コウバイタケ近縁種 |
| 36 <i>Leucopholiota decorosa</i> | ツノシメジ |
| 37 <i>Amanita farinosa</i> | ヒメコナカブリツルタケ |
| 38 <i>Amanita muscaria</i> | ベニテングタケ |
| 39 <i>Amanita rubrovolvata</i> | ヒメベニテングタケ |
| 40 <i>Amanita sychonopyramis</i> f. <i>subannulata</i> | テングタケダマシ |
| 41 <i>Amanita pantherina</i> | テングタケ |
| 42 <i>Amanita vaginata</i> | ツルタケ |

- | | |
|--------------------------------------|---------------|
| 40 <i>Tylopilus argillaceus</i> | アシボソニガイグチ |
| 41 <i>Tylopilus vinosobrunneus?</i> | ブドウニガイグチ? |
| 42 <i>Russula foetens?</i> | クサハツ? |
| 43 <i>Russula</i> sp. | アカハニセクロハツ（仮称） |
| 44 <i>Cantharellus cinnabarinus</i> | ベニウスタケ |
| 45 <i>Thelephora aurantiotincta</i> | ボタンイボタケ |
| 46 <i>Trametes versicolor</i> | カワラタケ |
| 47 <i>Nigroporus vinosus?</i> | ブドウタケ? |
| 48 <i>Inonotus mikadoi?</i> | カワウソタケ? |
| 49 <i>Scleroderma</i> sp.? | ニセショウロ属? |
| 50 <i>Geastrum triplex</i> | エリマキツチグリ |
| 51 <i>Bovistella</i> sp. | ダンゴタケ属 |
| 52 <i>Calocera cornea</i> | ツノフノリタケ |
| 53 <i>Diccephalospora rufocornea</i> | ニセキンカクアカビョウタケ |
| 54 <i>Chlorociboria aeruginosa</i> | ロクショウグサレキン |
| 55 <i>Pezizales</i> sp. | チャワンタケ目 |

源内峠観察品リスト

- | | |
|---|---------------|
| 1 <i>Neolentinus lepideus</i> | マツオウジ |
| 2 <i>Laccaria vinaceoavellanea</i> | カレバキツネタケ |
| 3 <i>Tricholomopsis</i> sp. | サマツモドキ近縁種 |
| 4 <i>Collybia peronata</i> | ワサビカレバタケ |
| 5 <i>Collybia confluens</i> | アマタケ |
| 6 <i>Xeromphalina campanella</i> | ヒメカバイロタケ |
| 7 <i>Amanita rufoferruginea</i> | カバイロコナテングタケ |
| 8 <i>Amanita pseudoporphyria</i> | コテングタケモドキ |
| 9 <i>Amanita virgineoides</i> | シロオニタケ |
| 10 <i>Amanita timida</i> var. <i>suouensis</i> ined | スオウシロオニタケ |
| 11 <i>Amanita kotohiraensis</i> | コトヒラシロテングタケ |
| 12 <i>Amanita</i> sp. | ツルタケ近縁種 |
| 13 <i>Amanita</i> sp. | コテングタケモドキ近縁種 |
| 14 <i>Volvariella subtaylori</i> | コフクロタケ |
| 15 <i>Leucocoprinus fragilissimus</i> | キツネノハナガサ |
| 16 <i>Agaricus</i> sp. No1 | ハラタケ属 No1 |
| 17 <i>Agaricus</i> sp. No2 | ハラタケ属 No2 |
| 18 <i>Lepiota</i> sp. | キツネノカラカサ属 |
| 19 <i>Psathyrella spintrigera</i> | ミヤマイタタケ |
| 20 <i>Crepidotus mollis</i> | チャヒラタケ |
| 21 <i>Crepidotus</i> sp. | チャヒラタケ属 |
| 22 <i>Paxillus atrotomentosus</i> | ニワタケ |
| 23 <i>Boletellus emodensis</i> | キクバナイグチ |
| 24 <i>Boletellus obscurecoccineus</i> | ミヤマベニイグチ |
| 25 <i>Boletaceae</i> sp. | オオアワタケ（仮称） |
| 26 <i>Boletus subcinnamomeus</i> | サザナミイグチ |
| 27 <i>Boletus ornatipes</i> | キアミアシイグチ |
| 28 <i>Boletus</i> sp. | フリルイグチ（仮称） |
| 29 <i>Tylopilus valens</i> | ホオベニシロアシイグチ |
| 30 <i>Russula eburneoareolata</i> | ツギハギハツ |
| 31 <i>Russula vesca</i> | チギレハツタケ |
| 32 <i>Lactarius corrugis</i> | チリメンチチタケ |
| 33 <i>Cantharellus cinnabarinus</i> | ベニウスタケ |
| 34 <i>Xylobolus spectabilis</i> | モミジウロコタケ |
| 35 <i>Thelephora aurantiotincta</i> | ボタンイボタケ |
| 36 <i>Thelephora palmata</i> | モミジタケ |
| 37 <i>Cryptoporus volvatus</i> | ヒトクチタケ |
| 38 <i>Tyromyces chioneus</i> | オシロイタケ |
| 39 <i>Pycnoporus coccineus</i> | ヒイロタケ |
| 40 <i>Trametes versicolor</i> | カワラタケ |
| 41 <i>Trichaptum bifforme</i> | ハカワラタケ |
| 42 <i>Trichaptum elongatum</i> | シロハカワラタケ |
| 43 <i>Fomitopsis spraguei</i> | カタオシロイタケ |
| 44 <i>Phellinus gilvovoides</i> | ネンドタケモドキ |
| 45 <i>Cyathus striatus</i> | スジチャダイゴケ |
| 46 <i>Diccephalospora rufocornea</i> | ニセキンカクアカビョウタケ |
| 47 <i>Podostroma cornu-damae</i> | カエントケ |
| 48 <i>Isaria farinosa</i> | コナサナギタケ |
| 49 <i>Gibellula</i> sp. | ギベルラタケ |
| 50 <i>Lycogala epidendrum</i> | マメホコリ |

- | | | | |
|--|-----------------------|--|--------------------|
| 43 <i>Amanita vaginata</i> s.l. | ツルタケ (広義) | 114 <i>Boletus reticulatus</i> | ヤマドリタケモドキ |
| 44 <i>Amanita fulva</i> | カバイロツルタケ | 115 <i>Boletus calopus</i> | アシベニイグチ |
| 45 <i>Amanita fulva?</i> | カバイロツルタケ? (巨大) | 116 <i>Boletus subvelutipes</i> s.l. | アメリカウラベニイロガワリ (広義) |
| 46 <i>Amanita punctata</i> | オオツルタケ | 117 <i>Boletus appendiculatus</i> | ミヤマアミアシイグチ |
| 47 <i>Amanita hemibapha</i> | タマゴタケ | 118 <i>Boletus</i> sp. | ヤマドリタケ属 |
| 48 <i>Amanita hemibapha</i> s.l. | タマゴタケ (広義) | 119 <i>Boletus pseudoseparans</i> | 和名なし |
| 49 <i>Amanita longistriata</i> | タマゴテングタケモドキ | 120 <i>Tylophilus fumosipes</i> | アイゾメクロイグチ |
| 50 <i>Amanita longistriata</i> or <i>A. incarnatifolia</i> | タマゴテングタケモドキ又はアカハテングタケ | 121 <i>Tylophilus neofelleus</i> | ニガイグチモドキ |
| 51 <i>Amanita virosa</i> | ドクツルタケ | 122 <i>Tylophilus felleus</i> | ニガイグチ |
| 52 <i>Amanita porphyria</i> | コテングタケ | 123 <i>Leccinum extremiorientale</i> | アカヤマドリ |
| 53 <i>Amanita citrina</i> | コタマゴテングタケ | 124 <i>Leccinum versipelle</i> | キンチャヤマイグチ |
| 54 <i>Amanita</i> sp. | コタマゴテングタケ近縁種 | 125 <i>Leccinum holopus</i> | シロヤマイグチ |
| 55 <i>Amanita flavipes</i> | コガネテングタケ | 126 <i>Leccinum scabrum</i> | ヤマイグチ |
| 56 <i>Amanita rubescens</i> | ガンタケ | 127 <i>Leccinum variicolor</i> | アオネノヤマイグチ |
| 57 <i>Amanita</i> sp. No1 | テングタケ属 No1 | 128 <i>Russula eburneoareolata</i> | ツギハギハツ |
| 58 <i>Amanita</i> sp. No2 | テングタケ属 No2 | 129 <i>Russula nigricans</i> s.l. | クロハツ (広義) |
| 59 <i>Amanita</i> sp. No3 | テングタケ属 No3 | 130 <i>Russula</i> sp. | シロクロハツ |
| 60 <i>Pluteus cervinus</i> | ウラベニガサ | 131 <i>Russula densifolia</i> s.l. | クロハツモドキ (広義) |
| 61 <i>Macrolepiota procena</i> | カラカサタケ | 132 <i>Russula rubescens</i> | イロガワリベニタケ |
| 62 <i>Lepiota clypeolaria</i> | ワタカラカサタケ | 133 <i>Russula compacta</i> | アカカバイロタケ |
| 63 <i>Coprinus</i> sp. | ヒトヨタケ属 | 134 <i>Russula</i> sp. | キツネハツ近縁種 |
| 64 <i>Agrocybe</i> sp.? | フミヅキタケ属? | 135 <i>Russula foetens</i> | クサハツ |
| 65 <i>Hypholoma sublateralitium</i> | クリタケ | 136 <i>Russula</i> sp. | クサハツ近縁種? |
| 66 <i>Hypholoma fasciculare</i> | ニガクリタケ | 137 <i>Russula laurocerasi</i> | クサハツモドキ |
| 67 <i>Pholiota flammans</i> | ハナガサタケ | 138 <i>Russula senecis</i> | オキナクサハツ |
| 68 <i>Pholiota aurivella</i> | ヌメリスギタケモドキ | 139 <i>Russula pectinatoides</i> | ニセクサハツ |
| 69 <i>Pholiota spumosa</i> | キナメツムタケ | 140 <i>Russula cyanoxantha</i> s.l. | カワリハツ (広義) |
| 70 <i>Pholiota</i> sp. | キイロツチスギタケ (仮称) | 141 <i>Russula cyanoxantha</i> s.l.? | カワリハツ (広義)? |
| 71 <i>Kuehneromyces mutabilis</i> | センボンイチメガサ | 142 <i>Russula heterophylla</i> | ウグイスハツ |
| 72 <i>Inocybe fastigiata</i> | オオキヌハダトマヤタケ | 143 <i>Russula</i> sp. | ニオイコベニタケ近縁種 |
| 73 <i>Inocybe maculata</i> | シラゲアセタケ | 144 <i>Russula virescens</i> | アイタケ |
| 74 <i>Inocybe calamistrata</i> | アオアシアセタケ | 145 <i>Russula viridibrulimbata</i> | フタイロベニタケ |
| 75 <i>Inocybe geophylla</i> var. <i>lilacina</i> | ウスムラサキアセタケ | 146 <i>Russula atropurpurea</i> | ムラサキハツ |
| 76 <i>Inocybe phaeodisca</i> var. <i>geophylloides</i> | シロトマヤタケモドキ | 147 <i>Russula aquosa</i> ? | 和名なし? |
| 77 <i>Inocybe kobayashii?</i> | コバヤシアセタケ? | 148 <i>Lactarius</i> sp. | ツチカブリ近縁種 |
| 78 <i>Inocybe paludinella</i> | キヌハダニセトマヤタケ | 149 <i>Lactarius glaucescens</i> | アオゾメツチカブリ |
| 79 <i>Inocybe</i> sp. | アセタケ属 | 150 <i>Lactarius vellereus</i> | ケシロハツ |
| 80 <i>Hebeloma sacchariolum</i> | ヒメワカフサタケ | 151 <i>Lactarius volemus</i> | チチタケ |
| 81 <i>Hebeloma sporiatum</i> | アシナガヌメリ | 152 <i>Lactarius gerardii</i> | クロチチダマシ |
| 82 <i>Rozites caperata</i> | ショウゲンジ | 153 <i>Lactarius controversus</i> | ケショウシロハツ |
| 83 <i>Cortinarius claricolor</i> var. <i>turmalis</i> | オオツガタケ | 154 <i>Lactarius lignyotus</i> | クロチチタケ |
| 84 <i>Cortinarius claricolor</i> | ツガタケ | 155 <i>Lactarius quietus</i> | チョウジチチタケ |
| 85 <i>Cortinarius crocolitus</i> | キオビフウセンタケ | 156 <i>Lactarius hygginus</i> | ヌメリアカチチタケ |
| 86 <i>Cortinarius caesiocyaneus</i> | アサギフウセンタケ | 157 <i>Lactarius torminosus</i> | カラハツタケ |
| 87 <i>Cortinarius salor?</i> | ムラサキアブラシメジモドキ? | 158 <i>Lactarius chrysorrheus</i> | キチチタケ |
| 88 <i>Cortinarius pseudosalor</i> | ヌメリササタケ | 159 <i>Lactarius necator</i> | ウグイスチャチチタケ |
| 89 <i>Cortinarius bovinus</i> | サザナミツバフウセンタケ | 160 <i>Lactarius laeticolorus</i> | アカモミタケ |
| 90 <i>Cortinarius armillatus</i> | ツバフウセンタケ | 161 <i>Lactarius hatsudake</i> | ハツタケ |
| 91 <i>Cortinarius</i> sp. | フウセンタケ属 (オレラヌス群の1種?) | 162 <i>Lactarius</i> sp. | アカアシボソチチタケ (仮称) |
| 92 <i>Gymnopilus liquiritiae</i> | チャツムタケ | 163 <i>Craterellus cornucopioides</i> | クロラッパタケ |
| 93 <i>Gymnopilus penetrans</i> | キツムタケ | 164 <i>Clavulinopsis helvola</i> | キソウメンタケ |
| 94 <i>Phaeocollybia christinae</i> | ナメニセムクエタケ | 165 <i>Clavulinopsis miyabeana</i> | ベニナギナタタケ |
| 95 <i>Phaeocollybia festiva</i> | カワムラジンガサタケ | 166 <i>Pterula multifida?</i> | フサタケ? |
| 96 <i>Entoloma rhodopolium</i> | クサウラベニタケ | 167 <i>Pterulina cristata</i> | カレエダタケ |
| 97 <i>Entoloma staurosporium</i> | ミノモミウラモドキ | 168 <i>Ramaria ephemeroforma</i> | ウスカワホウキタケ |
| 98 <i>Entoloma sinuatum</i> | イッポンシメジ | 169 <i>Ramaria</i> sp. No1 | ホウキタケ属 No1 |
| 99 <i>Entoloma</i> sp. | イッポンシメジ属 | 170 <i>Ramaria</i> sp. No2 | ホウキタケ属 No2 |
| 100 <i>Paxillus involutus</i> | ヒダハタケ | 171 <i>Gomphus floccosus</i> | ウスタケ |
| 101 <i>Chroogomphus tomentosus</i> | フサクギタケ | 172 <i>Stereum ostrea</i> | チャウロコタケ |
| 102 <i>Strobilomyces strobilaceus</i> s.l. | オニイグチ (広義) | 173 <i>Aleurodiscus mirabilis</i> | ニクコウヤクタケ |
| 103 <i>Boletaceae</i> sp. | イグチ科 | 174 <i>Stereopsis burtianum</i> | ハナウロコタケ |
| 104 <i>Gyrodon lividus</i> | ハンノキイグチ | 175 <i>Sparassis crispa</i> | ハナビラタケ |
| 105 <i>Suillus spraguei</i> | ベニハナイグチ | 176 <i>Hydnum repandum</i> var. <i>album</i> | シロカノシタ |
| 106 <i>Suillus laricinus</i> | シロヌメリイグチ | 177 <i>Phellodon niger?</i> | クロハリタケ? |
| 107 <i>Suillus grevillei</i> | ハナイグチ | 178 <i>Hydnellum suaveolens</i> | ニオイハリタケ |
| 108 <i>Suillus salmonicolor</i> | ヌメリツバイグチ | 179 <i>Boletopsis leucomelas</i> | クロカワ |
| 109 <i>Suillus placidus</i> | ゴヨウイグチ | 180 <i>Polyporus badius</i> | アシグロタケ |
| 110 <i>Suillus tomentosus</i> | ワタゲヌメリイグチ | 181 <i>Microporus</i> sp. | ウチワタケ近縁種 |
| 111 <i>Suillus</i> sp. | アミジコウ (仮称) | 182 <i>Piptoporus soloniensis</i> | シロカイメンタケ |
| 112 <i>Xerocomus parvulus</i> | ヒメアワタケ | 183 <i>Tyromyces chioneus</i> | オシロイタケ |
| 113 <i>Xerocomus obscurebrunneus</i> | ミヤマアワタケ | 184 <i>Oligoporus caesius</i> | アオジメタケ |
| | | 185 <i>Piptoporus betulinus</i> | カンバタケ |
| | | 186 <i>Coltricia cinnamomea</i> | ニッケイタケ |

187 <i>Daedalea dickinsii</i>	ホウロクタケ
188 <i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
189 <i>Lenzites betulinus</i>	カイガラタケ
190 <i>Trichaptum fuscoviolaceum</i>	ウスバシハイタケ
191 <i>Heterobasidion insularis</i>	レンガタケ
192 <i>Fomes fomentarius</i>	ツリガネタケ
193 <i>Elfvvingia applanata</i>	コフキササルノコシカケ
194 <i>Astraeus hygrometricus</i>	ツチグリ
195 <i>Nidula niveo-tomentosa</i>	コチャダイゴケ
196 <i>Lycoperdon spadiceum</i>	キホコリタケ
197 <i>Holtermannia corniformis</i>	ニカワツノタケ
198 <i>Pseudohydnum gelatinosum</i>	ニカワハリタケ
199 <i>Calocera viscosa</i>	ニカワホウキタケ
200 <i>Elaphomyces granulatus</i>	ツチダンゴ
201 <i>Cudonia</i> sp.	ホテイタケ属
202 <i>Spathularia flavida</i>	ヘラタケ
203 <i>Ascocoryne cylichnium?</i>	ムラサキゴムタケ?
204 <i>Leotia stipitata</i>	アカエノズキンタケ
205 <i>Chlorociboria aeruginascens</i>	ロクショウグサレキンモドキ
206 <i>Chlorociboria omnivirens</i>	ヒメロクショウグサレキン
207 <i>Ombrophila</i> sp.	オムブロフィラ属
208 <i>Leotiaceae</i> sp.	ズキンタケ科
209 <i>Hypomyces</i> sp.	タケリタケ

30 <i>Shizopora flavipora</i>	アナタケ (広義)
31 <i>Corioloopsis strumosa</i>	センベイタケ
32 <i>Pycnoporus coccineus</i>	ヒイロタケ
33 <i>Antrodia multipileata</i>	和名なし
34 <i>Trametes orientalis</i>	クジラタケ
35 <i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
36 <i>Lenzites betulinus</i>	カイガラタケ
37 <i>Trichaptum fuscoviolaceum</i>	ウスバシハイタケ
38 <i>Trichaptum bifforme</i>	ハカワラタケ
39 <i>Abundisporus pubertatis</i>	ホウネンタケ
40 <i>Cyclomyces fuscus</i>	ワヒダタケ
41 <i>Inonotus vallatus</i>	アズマタケ
42 <i>Phellinus setifer</i>	ネンドタケモドキ
43 <i>Pisolithus tinctorius</i>	コツブタケ
44 <i>Calostoma japonicum</i>	クチベニタケ
45 <i>Geastrum</i> sp.	シロツチガキ類似種
46 <i>Geastrum triplex</i>	エリマキツチグリ
47 <i>Calvatia</i> sp.	ノウタケ属
48 <i>Lycoperdon perlatum</i>	ホコリタケ
49 <i>Tremella foliacea</i>	ハナビラニカワタケ
50 <i>Auricularia polytricha</i>	アラゲキクラゲ
51 <i>Calocera cornea</i>	ツノフノリタケ

第509回例会 吉田山菌類観察会

日時：2012年10月27日 (土) 快晴
28名参加
場所：京都市吉田山 (雑木林)

同定種数：65件51種 (科・属までの同定を含む) 採集きのこは例年通り第21回きのこ展会場に持ち込まれ、同定後に会場に展示された。
(榎本輝彦)

観察品リスト

1 <i>Pleurotus pulmonarius</i>	ウスヒラタケ
2 <i>Lyophyllum decastes</i>	ハタケシメジ
3 <i>Lepista nuda</i>	ムラサキシメジ
4 <i>Tricholoma ustale</i>	カキシメジ
5 <i>Mycena haematopoda</i>	チシオタケ
6 <i>Mycena</i> sp.	クヌギタケ属
7 <i>Amanita citrina</i> var. <i>citrina</i>	コタマゴテングタケ
8 <i>Pluteus cervinus</i>	ウラベニガサ
9 <i>Macrolepiota</i> sp.	カラカサタケ属
10 <i>Lepiota acutesquamosa</i>	オニタケ
11 <i>Psathyrella candolleana</i> s.l.	イタチタケ (広義)
12 <i>Agrocybe</i> sp.?	フミヅキタケ属?
13 <i>Hypholoma fasciculare</i>	ニガクリタケ
14 <i>Paxillus atrotomentosus</i>	ニワタケ
15 <i>Russula alboareolata</i>	ヒビワレシロハツ
16 <i>Russula lilacea</i>	ウスムラサキハツ
17 <i>Russula emetica</i> var. <i>sylvestris</i>	モリノドクベニタケ (仮称)
18 <i>Lactarius quietus</i>	チョウジチチタケ
19 <i>Stereum ostrea</i>	チャウロコタケ
20 <i>Phanerochaete crossa</i>	カミウロコタケ
21 <i>Radulomyces copelandii</i>	サガリハリタケ
22 <i>Steccherinum rhois</i>	アラゲニクハリタケ
23 <i>Polyporus hemicaphnodes</i> complex	和名なし (ネッタイアシグロタケ近縁種)
24 <i>Polyporus</i> sp.	ネッタイアシグロタケ近縁種
25 <i>Microporus affinis</i>	ウチワタケ
26 <i>Laetiporus versisporus</i>	ヒラフスベ (アイカワタケ)
27 <i>Oligoporus caesius</i>	アオゾメタケ
28 <i>Postia japonica</i>	ヤマトオシロイタケ
29 <i>Junghuhnia nitida</i>	ニクイロアナタケ

第511回例会 大泉緑地菌類観察会

日時：2012年11月4日 (日) 晴れ
24名参加
場所：堺市大泉緑地
(コナラ中心の雑木林)

しばらく雨もなく、11月ときこのシーズン終盤ではありましたが、「森の路」に敷き詰められた木質チップのおかげで、腹菌類やモエギタケの仲間がみられました。
(佐久間大輔)

観察品リスト

1 <i>Lyophyllum decastes</i>	ハタケシメジ
2 <i>Lepista nuda</i>	ムラサキシメジ
3 <i>Lepista</i> sp.	ムラサキシメジ属
4 <i>Leucopaxillus giganteus</i>	オオイチョウタケ
5 <i>Chlorophyllum molybdites</i>	オオシロカラカサタケ
6 <i>Agaricus</i> sp.	ハラタケ属
7 <i>Coprinus</i> sp.	ヒトヨタケ属
8 <i>Agrocybe farinacea</i>	ツバナシフミヅキタケ
9 <i>Agrocybe cylindracea</i>	ヤナギマツタケ
10 <i>Stropharia rugosoannulata</i>	サケツバタケ
11 <i>Stropharia aeruginosa</i>	モエギタケ
12 <i>Hypholoma squamosum</i> var. <i>thraustum</i>	カバイロタケ
13 <i>Inocybe</i> sp.	アセタケ属
14 <i>Cortinarius</i> sp.	フウセンタケ属
15 <i>Abortiporus biennis</i>	ニクウチワタケ
16 <i>Antrodia zonata</i>	ニクウスバタケ
17 <i>Coriolus subradiatus</i>	ウラギンタケ
18 <i>Perenniporia ochroleuca</i>	ウズラタケ
19 <i>Scleroderma citrinum</i>	ニセショウロ
20 <i>Calvatia rubroflava</i>	イロガワリホコリタケ
21 <i>Lycoperdon perlatum</i>	ホコリタケ
22 <i>Lycoperdon</i> sp.	ホコリタケ属
23 <i>Linderia bicolumnata</i>	カニノツメ
24 <i>Lysurus mokusin</i>	ツマミタケ
25 <i>Pseudocolus schellenbergiae</i>	サンコタケ
26 <i>Phallus rugulosus</i>	キツネノタイマツ
27 <i>Hypoxylon truncatum</i>	クロコブタケ

会報記事投稿のご案内

～皆様の投稿をお待ちしております～

- ◇原則として、投稿資格は本会会員に限ります（編集委員会から依頼する場合は例外とします）。
- ◇キノコやカビに関する記事、図、写真やイラスト、本誌に関するご意見などをお寄せください。
- ◇原稿の量は問いませんが、1600～2000字を目処にまとめていただくと幸いです。もちろん、これより多くても少なくともかまいません。
- ◇図やイラストは黒インクで、刷り上がりの1.5倍程度の大きさでお描きください。カラーでの印刷はできませんので、白黒でも見やすい原稿の作成をお願いします。
- ◇写真の掲載を希望される場合は、あらかじめ編集委員会までおたずねください。（写真製版料をご負担いただく場合があります）
- ◇原稿は下記の送付先にお送りください。別紙に著者名、連絡先（住所・電話番号・FAX番号・電子メールアドレス）を書いて添付ください。ワープロなどをお使いの場合は、フロッピーディスクなどにテキスト形式のファイルで保存されたものを添付いただくようお願いいたします。また、電子メールを利用

できる場合は、電子メールでの投稿も歓迎いたします。
◇原稿の採否、掲載の順序、レイアウト等は、編集委員会の決定にお委せください。

◇編集委員会は、著者の原稿中の字句、表、図、写真などのスタイルの統一や変更を求めることがあります。文章の用法上、あるいは、文法上の誤り、その他の修正は編集委員会にお委せください。

◇原稿には表題、著者名、本文のほかに必要な場合は引用文献（あるいは参考文献）をあげてください。

◇著者校正は、初稿だけとし、原稿正本とともに返送ください。

◇掲載された原稿はお返しませんが、図、写真に限り著者校正の際にお返しします。

<原稿送付先>

関西菌類談話会 会報編集委員会

正井俊郎

〒673-0844 明石市東野町2043-15-101

TEL : 078-917-3923

E-mail : toshiro@mug.biglobe.ne.jp

編集委員：天野典英，橋本貴美子，丸山健一郎，
正井俊郎[○]，森本繁雄，斎木達也，
(abc順・[○]印は編集委員長)

表紙によせて

クロハツモドキ *Russula densifolia* (Secr.) Gill.

普通のデジカメで記録したもので使い物になるかどうかわかりませんが、醍醐寺で見つけたもので面白いものがありましたので、会報表紙の写真に使ってもらえればと思い投稿しました。傘が2段になっている奇形のクロハツモドキです。

僕自身は、こんなのは初めて見ました。今後は、面白いものを見つけたら表紙になる可能性を意識して、しっかり撮っておこうと思います。

2011年8月29日撮影 西田富士夫

訃報

元関西菌類談話会役員の西田富士夫さんが2015年8月28日にご逝去されました。つつしんでおくやみ申し上げます。

編集後記

編集の不幸際や、発行が定期でなかったため掲載が遅れた記事がありましたこととお詫びいたします。今後は、1年2号の発行を計画的に行おうと、編集委員全員で確認しあったところです。論文形式の記事だけでなく、写真や図を中心に簡単な説明を加えたような気軽に読める記事も載せて行きたいと思います。また、各行事の報告などを指名して編集委員からお願いいたしますので、ご協力をお願い致します。（正井俊郎）

関西菌類談話会会報 No. 32

平成28年4月15日 印刷

平成28年4月15日 発行

編集 関西菌類談話会会報編集委員会

発行 関西菌類談話会

発行所 関西菌類談話会

ホームページ <http://kmc-jp.net/>

事務局 〒616-8182 京都市右京区太秦北路町3-3 309号

北岸 阿佐子 方

郵便振替口座 00950-0-83129

印刷所 中西印刷株式会社

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る